

6 色彩ガイドライン

屋外広告物の色彩の基本的な考え方

■屋外広告物の目指す色彩とは

近年、屋外広告物は、大型化とともに周囲の景観と調和しない色彩の広告物がみられるものがあります。

屋外広告物の目指す色彩とは、街並みと自然環境に調和した色彩とし、地域の持つ歴史・文化・自然・風土などの多様な個性に融合させましょう。

■地域色と素材の発見

色に対して抱くイメージは人によって微妙に異なります。しかし、その場所がすでにもっている色彩及び素材を客観的に発見整理し地域色とすることで、色彩イメージを共通認識することができます。広告物もこの地域色に添ったもので計画することが大切です。

■屋外広告物の地色と表示色

本ガイドラインでは、屋外広告物の色彩を屋外広告物の地色（ベースカラー）と表示色（アクセントカラー）に分けて考えます。地色は周囲の景観や街並みに出来るだけ調和させ、表示色は事業者が定めているカラーシステムを尊重しようというものです。

○地色（ベースカラー）・・・広告物の地となっている大きな割合を占める色。

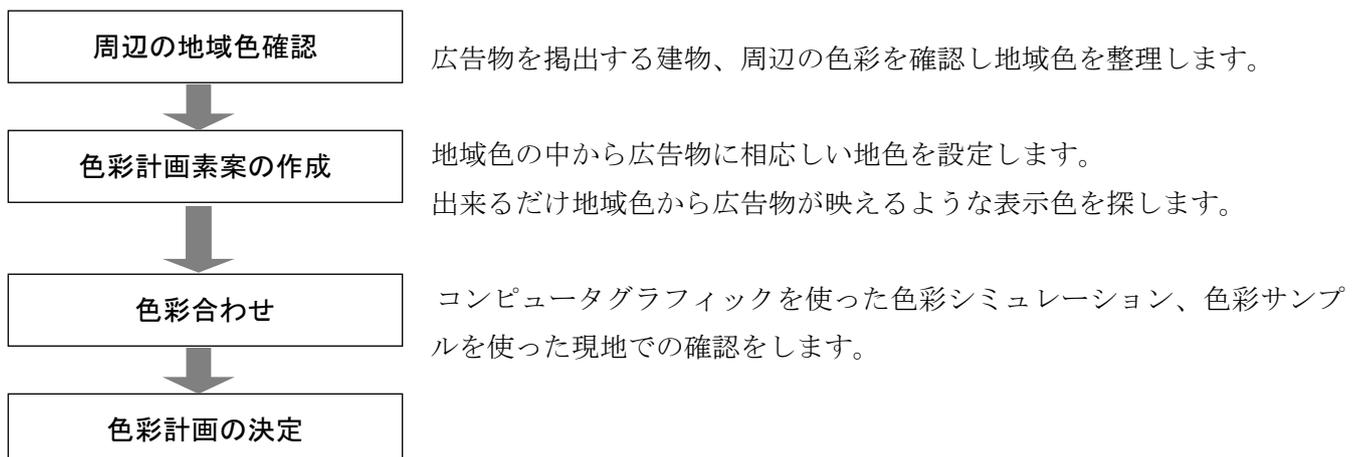
○表示色（アクセントカラー）・・・文字やマークなど広告物を表示する色。地色に対して小さな面積の色。



屋外広告物の色彩を決めるまで

○以下の流れを参考に、屋外広告物の色彩を計画しましょう。

○計画にあたっては、広告事業者等専門家のアドバイスを受けましょう。



屋外広告物の色彩ガイドライン

地色と表示色の扱い

地色（ベースカラー）は、地域色との調和を考慮して出来る限り彩度を低くしましょう。

屋外広告物条例では、地色の彩度15未満、また、第1種・2種規制地域の案内用広告物の彩度は8以下と定めています。

表示色は、事業者のカラーシステムの色、ごく小さな面積の文字などで用いる鮮やかな色彩も使用可能です。



■歴史的街並みの例

○伝統色で構成される地域色

建物及び広告物の多くは、木、漆喰、瓦、金属など素材感と配色により、伝統的な色彩が使われています。

そこで、無彩色や茶系を基本とした伝統色で地色をつくり、同じ伝統色の中で、広告物が映える表示色を使います。

歴史的街並みの地色(伝統色)の例



茶ねずみ とのこ色 にべ色 明灰色 桜かすみ色うぐいす色 らくだ色 丁子色

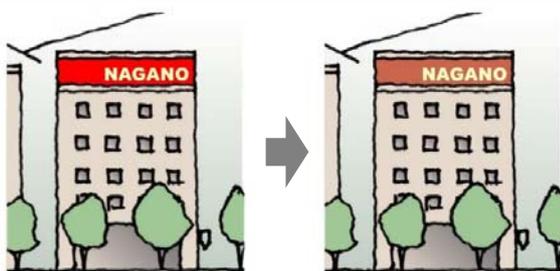
表示色(伝統色)の例



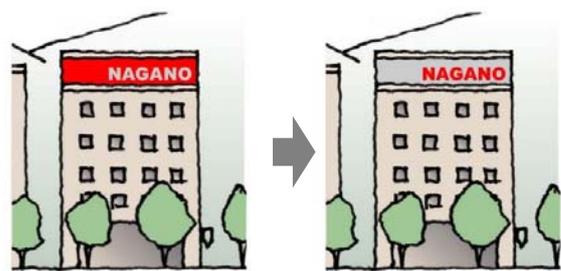
れんが色 すみれ色 みる色 あやめ色 黒 うす茶色 さびび茶 濃色

屋外広告物の配色方法

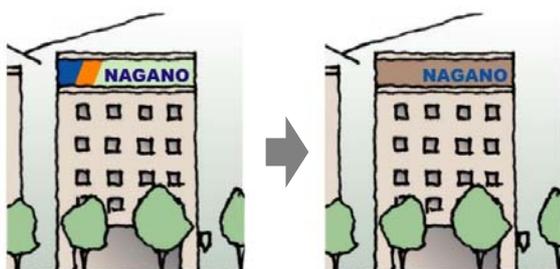
○地色を落ち着いた色にする



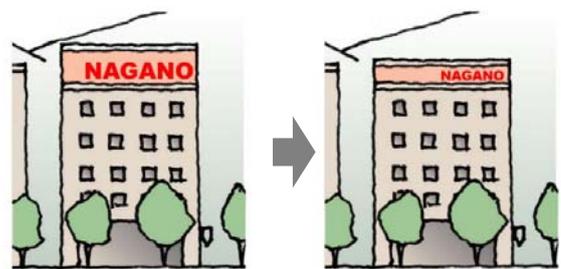
○地色と表示色を反転させる



○色使いをシンプルにする。



○面積を小さくする。



参考：屋外広告物の色彩を考えるときの一例

■配色イメージスケールの活用

色を言葉で表現した場合、共通する部分も多く認められます。そのイメージの共通感覚を心理学的に明らかにしたのがイメージスケールです。このイメージスケールの相対的な位置づけやパターンを活用して地域色を定めることが可能です。

○歴史的街並みの例

建物及び広告物は、木、漆喰、瓦、金属など素材感と配色により、イメージスケールのクラシック、エレガント付近に集中しています。(図①)

■屋外広告物の色彩の選択

地域色を決めることが出来たならば、建物や構造物の色や、広告物の色をその範囲内で選択します。ただし、配色イメージスケール(図②)は、限られた配色サンプルでイメージ全体をとらえるためのものであり、さらに細やかな配色パターンが用意されています。

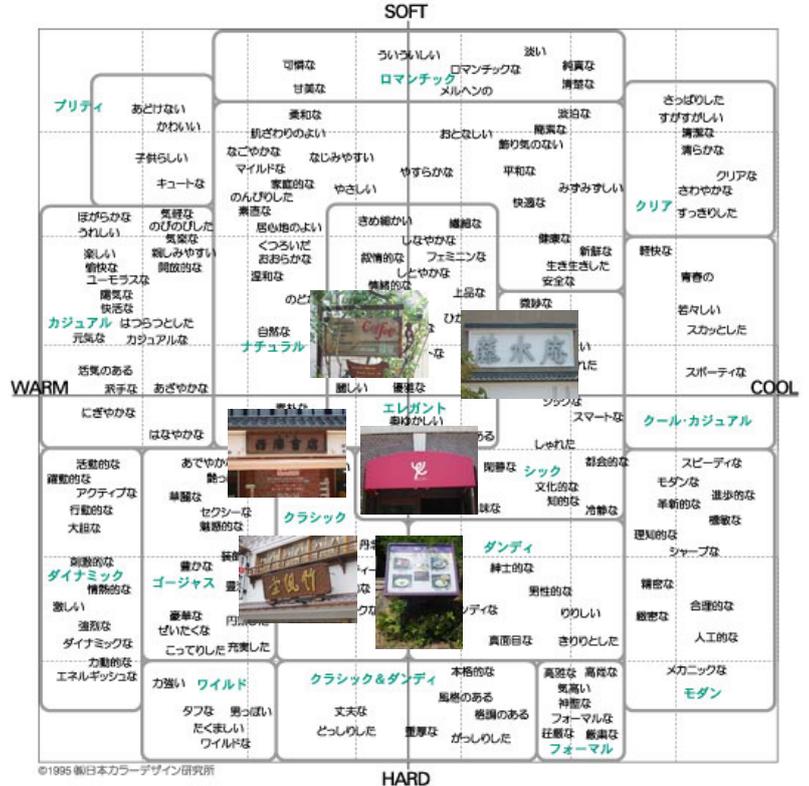
○歴史的街並みの配色例



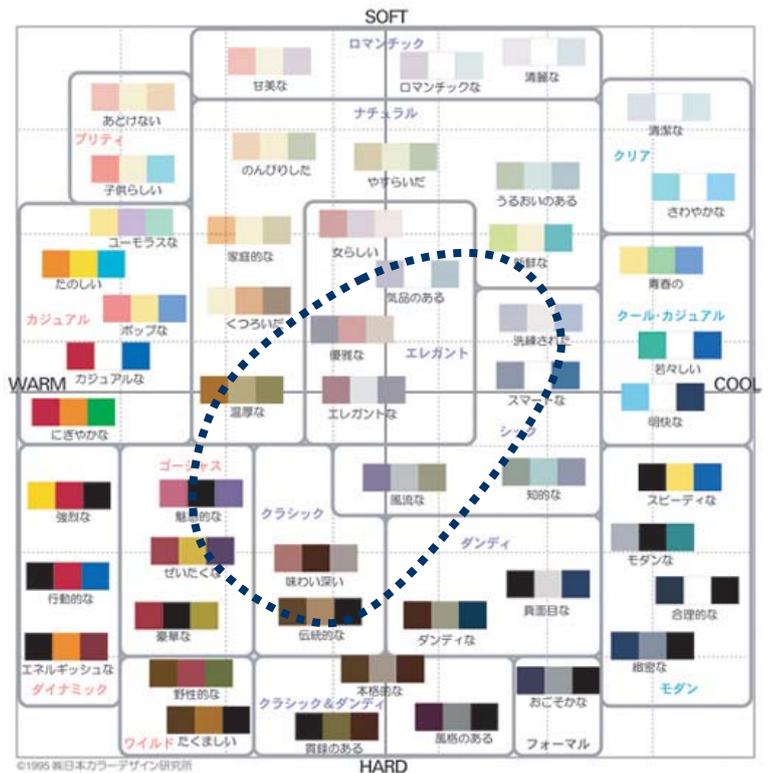
出典：配色イメージワーク 著：小林重順 編：日本カラーデザイン研究所

※イメージスケールとは

イメージスケールは、(株)日本カラーデザイン研究所(www.ned-ri.co.jp)が心理学的研究により、独自に開発したものです。



図① 言語イメージスケール



図② 配色イメージスケール